

第75回しずない農業協同組合通常総会

全6議案原案通り可決される

4月7日、新ひだか町公民館において「第75回しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。今年度の総会につきましては、社会的にはコロナ禍の正常化に向けた取り組みを開始しているところですが、未だに医療等への負担が続いていることから、組合員各位には通常の開催案内をし、来賓各位についてはお招きせず開催致しました。

冒頭では、片岡博代表理事組合長より「本総会につきましては、新型コロナウイルス感染症防止の観点から来賓の出席を取りやめさせて頂いたことに対してご理解賜りたくお願い申し上げます。

今年、第30回J A北海道大会の実践2年目となります。決議された将来ビジョンである「北海道550万人と共に創る力強い農業」と「豊かな魅了ある地域社会」達成の実現に向け様々な課題を解決する必要があります。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の渦中にあり日常への負担や制限を受け各所に影響が続きました。更に、

国際紛争の長期化や急激な円安による飼料肥料などの生産資材の高止まりと電気やガソリン軽油重油などのエネルギー価格の高騰など苦勞の絶えない1年であったかと思えます。そして、世界の食料需給事情ではインドやアフリカ諸国などの人口増加

国では、自国の食糧確保の動きが始め世界的な人口増加による食糧不足など食料争奪戦が始まっています。自国の食料を安定的にどう確保するのか今こそ大いに農業基本法並びに食料安保の議論が必要となつていきます。

さて、当J Aの昨年の概況ですが大きな自然災害も無く穏やかな年でありましたが、春先の好天候の後6月から長雨など天候不順が続き牧草

作業など苦勞の多い年でした。水稲においては、天候に多少の不安もありましたが、高品質米を収穫することが出来「万馬券」の販売も好評なことから取扱高7, 238万円となりました。

ミニトマトにおいては、1年を通して天候不順が続き収穫量が伸びな

い状況でありましたが生産者の努力により減少率を最小限に抑え8億3, 824万円となりました。

酪農においては、配合飼料・電気料金の値上げ生産の抑制、子牛価格の暴落と大変厳しい状況が続いており取扱高は、3億5, 875万円となりました。

黒毛和牛においては、出荷頭数841頭と計画頭数を51頭上回り取扱高5億6, 691万円となりました。素牛価格の下げ要因が多く生産者の高齢化による飼養頭数の減少も見られ取扱高は6億円下回る状況となっております。

軽種馬においては、昨年の市場取引は販売頭数481頭、56億4, 580万円となり過去最高の実績となりました。市場全体でも150億円を超えた過去最高となり活気に満ちた1年となりました。また、昨年の競馬のG1においては「春の天皇

賞」と「宝塚記念」で岡田スタッド生産のタイトルホルダー号が、また香港シャティン競馬場で行われた第29回香港ヴァースでは、コスモヴェ

ーファーム生産ウインマリリン号がそして、12月29日大井競馬で行われた「第68回東京大賞典」そしてドバイ、メイダン競馬場で行われた「ドバイワールドカップ」でウシユバテ

ソーロ号が勝利を挙げました。改めて生産牧場の皆様にお祝い申し上げます。

当J A各部事業並びに財務状況は、コロナ渦の中一部制約もありましたが各部門共にほぼ計画通りに推移し計画以上の当期剰余金を計上することが出来ました。これもひとえに組合員の皆様のご利用のお陰とお礼申し上げます。

今年度においては、これら利用者に対してJ A独自の支援対策としてえん麦、配合飼料取扱者92件に4, 774千円、免税軽油・加温燃油利用者他163件に6, 836千円、合計で187件に11, 610千円の支援することができました。

今後においては、専門農協として経営改善5か年計画の着実な実践によりJ A経営基盤強化を図るために剰余金の内部留保による経営資金確保と譲渡不足資金支払いに努めていきます。今年度のJ A事業につきましては、中央会をはじめとする系統

機関の指導と協力のもとコロナ発生前と同様の事業を実施し農業まつり等のイベントをはじめとする規制を受けていた活動も正常活動に努めてまいります。このような中、なすべ

きことは施策に応じて長期的戦略が必要と思われれます。10年後の目指す